

# 荒川の魅力を

# 未来へつなげよう

## 広い河川敷が育んだ価値に気づいて!

### 荒川の上流、秩父生まれのたい平で〜す!

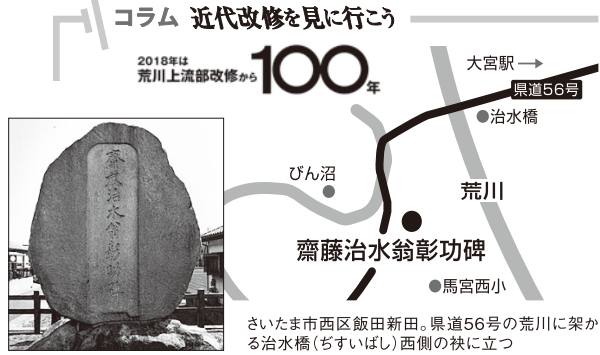
思えば、日本一の川幅を持つ荒川は私たちの財産です。自然環境もその一つ。広大な河川空間は「荒川上流部改修」によって生まれました。蛇行していた流路が直線化され、本流と切り離された旧流路は現在、荒川太郎衛門地区、荒川ピオトープ、三ツ又沼ピオトープなどの豊かな自然を残しています。

これらは荒川の自然をつなぐ「エコロジカルネットワーク」の拠点で、行政や地域住民、専門家などが協働して環境保全に取り組んでいます。

今年には改修から100年の節目。荒川が育んだ価値を再発見して、その魅力を未来へつなげましょう。



荒川太郎衛門地区周辺。蛇行する旧流路が残っているのが分かります



**齋藤治水翁彰功碑** (さいたま市)

治水橋の西詰めに「荒川上流部改修」の実現に奔走した齋藤祐美を称える石碑が立っています。蛇行する荒川を直線化する、新流路をどく入通すか。改修は齋藤の生まれ故郷馬宮村を分断します。治水橋はふるさとをつなぐ架け橋でした。残された旧流路の蛇行部は「びん沼川」と呼ばれ、今も豊かな水をたたえています。

今年は、  
荒川上流部改修から  
100年です!

林家たい平

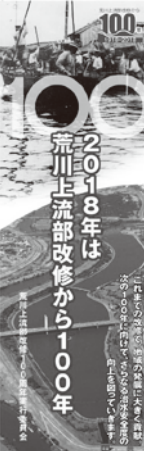
## 入間川流域の環境保全活動を応援! 武州・入間川プロジェクト

武州ガス(株)、荒川上流河川事務所、(公財)埼玉県生態系保護協会が連携し、入間川流域で環境保全活動などに取り組む市民団体や学校などを支援しています。河川環境・防災に関する学習会なども対象です。1団体20万円が上限。申請締切は3月16日。

武州・入間川プロジェクトで検索



水生生物調査(平成29年度の報告書から)



記念ののぼり旗

## 荒川上流部改修から100年 実行委が設立されました

荒川上流部の近代的な改修が始まったのは、ちょうど100年前の大正7(1918)年です。この節目に、荒川の歴史や役割を広く発信し、さらに未来へつなげようと、実行委員会が設立されました。

2月には、巡回パネル展が川越市からスタート。上・下流へと順次リレー開催していきます。

荒川上流部改修で検索

## 読者プレゼント

正解者の中から抽選で、たい平師匠のサイン色紙を5名様にプレゼントします。

### クイズ 荒川上流改修が始まったのは大正〇年?

【応募方法】専用サイトの応募フォームか、ハガキで応募してください。ハガキの場合は、クイズの答え、記事を読んだ感想、氏名、年齢、性別、〒、住所、電話番号を明記してください。

【応募先】〒331-8686 埼玉新聞社CM局 荒川プレゼント係

### 埼玉新聞で検索

【当選者発表】賞品の発送を

もってかえさせていただきます。

※ウェブ応募は、応募フォーム閉鎖まで ※ハガキ応募は、当日の消印有効

